
オンライン勉強会「本丸御殿から学ぶ伝統建築」に参加して 中野成仁（正会員）

先ず、講師をしてくださいました藤堂さんに感謝申し上げます。五回に渡るオンライン講座で、とても多くの新鮮な学びがあり、毎回、自分に欠けていた知識の穴がどんどん埋まってゆく興奮を覚えました。

淡々とご説明される藤堂さんの言葉の奥に、多くのご経験と広範な知識を感じました。テキストも実に簡潔、明瞭な労作で、建築士らしく豊富な図面や写真も説明力が高く、素晴らしく分かりやすいものでした。

計算尺すらない時代に、構造計算もなく材料を選び、組み立てていく技術。桔木（はねぎ）を使った軒の反りの構造。設計を容易にするモジュール。工作を効率化する材料寸法の規格化など、日本の伝統建築の合理性と知恵を感じました。

雨戸や障子戸の精緻な仕口の美しさ。柱や梁を

つなぐ複雑な形状の、精度と強度を保つ仕口。そして、その加工を可能にする技術と道具。表に見えないところにも技を惜しまない職人の矜持を感じます。

驚きは木工だけではなく、漆喰壁の積層構造にも、耐久性と見栄えの両立を求めて考え出された、幾層もの複雑な構成がありました。

襖は単に丈夫な紙を貼り重ねたものと思っていました。実際の襖は異なる様々な種類の紙を適所に使って補強した上、防音・断熱まで追求した“袋とじ”という技法が下地に施されていました。ここまでの配慮は思いもよらないものでした。

まだまだ天井や柿葺き等、学んだ多くは書き足りませんが、このような日本の伝統建築の奥深さを外国人のお客様に少しでも知っていただきたいと思っています。

オンライン講演会「ラサール領事のなごや日記」に参加して 市川由記（正会員）

2月10日に開催された駐名古屋カナダ領事ラサールさんのオンライン講演会に参加しました。先ず興味深かったのは領事のキャリア変遷の経緯です。大学卒業後弁護士になったものの、大学に再入学しアジアについて学び、奨学金で名古屋留学、その後民間企業勤務から外務省入省し外交官へと転身されました。30～40代でこのようにキャリア変更ができるのは、カナダと日本の教育や就職のシステムの違いでしょうか。もちろん領事のポジティブな姿勢と努力があったからできたことでしょう。

話題はどれも生活に密着した楽しいお話ばかりでした。その内のひとつ、ワークライフバランスについては日本でも取り組まれています。カナダでは当たり前の実現されており、日照時間の長い季節は、終業後にたっぷりプライベートを楽しむそうです。また、日本では多くのLGBT（セクシ

ャルマイノリティ）タレントが昔からテレビ番組に登場していることについて、日本人はLGBTを大らかに受け入れていると感じられたそうです。

領事が名古屋に赴任し初めて河村市長に会った時、「ようこそ、日本で一番人気のない街へ」と市長からの自虐的挨拶に驚かれたそうですが、住んでみると、名古屋は親しみやすく魅力的な街であると領事は語っておられました。領事は、東京の人気スポットである原宿、六本木、秋葉原の街並みの要素が一か所にコンパクトにおさまっている大須がお気に入り、大須近辺に住居を探したいほどのことでした。大須が領事のお薦めスポットと聞き、今後さらに大須のガイドが楽しみになりました。

話の端々や質疑応答でも領事の名古屋愛を感じられ、楽しくリラックスしてお聞きすることが出来ました。